

久保季彦 くぼしげ 國學者。文政十二年五月十一日江戸本郷生れ、明治十九年二月五日歿（一八三〇—六）。幼名鎮吉、通稱生貞。號杉の（乃）舎、杉之家、杉庵、杉庵居士、杉舎、水玉老人、玉甌道人、琴書、靜園。初の漢學、醫學を學ぶも、本居宣長の『古事記傳』を讀み國學の志し、鶴峯 つるかみ 八中 やちゅう 師事した。長じて幕府の醫官となりたが、攘夷を唱へて志 こころ 漸 ゆる と弱 よ した。明治元年神祇官書記、爾後大學大助教、宣敎權中博士、敎部省・宮内省御用掛を歴任。致仕後宮司、次で皇典講究所設立の際 とき して文學部教授に任じた。

著書に『古道訓蒙頌』（安政五年五月杉舎藏）、『大陽曆各註解』（伊藤信興合著、明治十一年一月頌齋館社）、『祝詞略解』全六冊（一之卷・明治十五年六月十日、二之卷・六月五日出版届、三之卷・十一月十四日出版届、四之卷・十六年二月、五之卷、六之卷・一月二十八日出版届、平田胤雄出版）、『洋教辨略』（聽者筆記、明治十八年四月出版届、平田胤雄出版）、『日本紀講義―神武天皇（之）卷』（明治二十二年十月六日日本文藝發行所）等。

